

日本語ボランティア教室 活動ブックの手引き



佐賀県日本語学習支援

カスタネット *CASTANETs*

～Citizens from Abroad to Saga, Teaching Assistant NETworks～

目次

ボランティアのみなさまへ		3
1. 休みの日に	~ます・ました	 4
2. 国際料理教室	~て、~/~てください/~ないてください	 6
3. 旅行先で	~てから/~て、~	 8
4. ルールとマナー	~てはいけません	 10
5. 趣味・仕事	~ことができます/~は~ことです/~がすきです	 12
6. 電話を受ける・意見を言う	~と思います/~と言います	 14
7. 楽しかったこと	~たことがあります	 16
8. わたしの夢	~がほしいです/~たいです/~ので、~	 18
9. これは何でしょう	形容詞+形容詞	 20
10. わたしの町	あります・います	 22
11. できること・できないこと	可能形	 24
12. タイムマシンがあったら	~たら、~	 26
13. ライトがついていますよ	~が~ています/自動詞・他動詞	 28
14. 割引券をもらったので	やりもらい/~ので、~/~のに、~	 30
15. 犬にお弁当を食べられました	受身形	 32
動詞の活用形/丁寧体・普通体（普通形）		34

ボランティアのみなさまへ

本書は日本語ボランティア教室での活動、交流を、円滑に進めていただくために作成した『日本語ボランティア教室活動ブック』（本冊）の手引き書です。各課の内容、活動の仕方、活動上の注意点、文法事項、執筆者の意図などが書かれています。

『日本語ボランティア教室活動ブック』の各課は、以下の9つのパートで構成されています。

- ▲はじめに
- ▲はなしましょう 1
- ▲はなしましょう 2
- ▲れんしゅうしましょう 1
- ▲れんしゅうしましょう 2
- ▲かくにんしましょう / ポイント！
- ▲もっと
- ▲かきましょう
- ▲ことばリスト

本書もこの順序で、活動の進め方を述べていきます。基本的な使い方は、本冊の「この本の使い方」のページに記してありますので、そちらをご覧ください。（本書の第1課にも詳しく書かれています。）本書では記載がない項目もありますが、それは基本的な使い方に沿って進めるものです。

また、解説の最後に「あるといいもの！」という欄がある課がありますが、そこには活動の前に準備した方がいいものが書かれています。

本書を事前に読んでいただいて、活動内容を理解してから使っていただくと、より楽しい時間になるでしょう。

*本書の中に出てくる「初級日本語集中講座」は、佐賀県日本語学習支援“カスタネット”が行っている生活者としての外国人への日本語講座です。1日6時間、6日間の集中講座で日本語の基礎を教え、ボランティア教室へ繋ぐことを目指しています。

1. 休みの日に （～ます・ました）

▲ はじめに

ウォーミングアップを兼ねて、イラストを見ながら語彙を確認します。ここでは動詞の確認です。「食べます、飲みます・・・」と言えるかどうかを見ます。「何をたべますか」「いつも何時に家に帰りますか」など、質問をしてもいいでしょう。

▲ はなしましょう 1

「休みの日に何をしますか」という問い掛けからはじめましょう。スポーツが好きな人にはスポーツの話を、インドア派の人には読書や映画、ゲームなど家で何をするか話しましょう。「どんなスポーツ（映画）が好きですか」「好きな選手（俳優）はだれですか」と聞きながら、ボランティアの方も自分のことを話しましょう。

▲ はなしましょう 2

イラストを見ながら話しますが、ドライブなのか、買い物に行くのか、友達のうちへ行くのか、自由に推測しておしゃべりしましょう。買い物へはどこへ行くのか、どこがいいお店か、お互いの情報を教え合いましょう。



▲ れんしゅうしましょう 1

まず、枠内の語彙を知っているかどうか確認しましょう。地名は外国人参加者がよく知っている地名に変えてもいいです。

文を作る際に助詞が問題になるかもしれません。助詞についていくつかポイントを書いておきます。

- ・「に」：「(場所) に 行きます (帰ります)」→到達点／目的地を表します。
- ・「へ」：「(場所) へ 行きます (帰ります)」→方向を表します。
- ・「で」：「(場所) で 見ます (飲みます...)」→動作の場所を表します。
- ・「で」：「(乗り物) で 行きます (帰ります)」→交通手段を表します。
- ・「と」：「(人／動物) と 行きます (します...)」→一緒に、という意味です。

一人で行く時は「ひとりで」と言います。

▲ れんしゅうしましょう 2

聞き取り練習をします。ボランティアの方が文（「ことばリスト」の下に書いてあります）を読み上げ、外国人参加者はアンダーラインの上に聞いた文を書き取ります。漢字で書かずに、ひらがな（ローマ字）で書いてもらいましょう。「きのう」が「きの」、「りょうり」が「りより」となっていないでしょうか？正しい表記に訂正してあげましょう。

それから、その文に対する受け答えが適切なものを選んでもらいます。A、B、C、Dの文を読んで、文の意味がわかっているかどうか確認します。①の答えはAとBです。Bは「一日中テレビを見てしまいました。」と少し後悔している表現です。②の答えもAとBです。Aは、本来は「家族が多いですから、大変ですが、毎日作ります。」という答えでしようが、なるべく自然な応答文を考えて提示しています。

▲ かくにんしましょう

「初級日本語集中講座」で勉強した文型です。読んで意味がわかっているかどうか確認します。

▲ もっと

「～てしまいました」は、残念なことや後悔したことを表す会話表現です。動詞のて形で繋がります。もっと口語的になると「～ちゃった、～じゃった」などの縮約形になります。

「食べます→食べてしまいました→食べちゃった」

「飲みます→飲んでしまいました→飲んじゃった」

と形の変換を練習しましょう。その後、何か残念なことがあったか、聞きます。ボランティアの失敗談などを話してもいいでしょう。

▲ かきましょう

休みにすることを作文にします。初級者も、1文でもいいので書くように促してください。時間内に書ききれない場合は、宿題としても構いません。その場合は、次回の確認が必要です。

▲ ことばリスト

活動中に出てきた言葉で気になったもの、難しかったものを書き込んでください。外国人参加者には空欄に母語で意味を書いてもらいましょう。知らなかった言葉を確認することで、記憶に繋がります。

2. 国際料理教室 （～て、～／～てください／～ないでください）

▲ はじめに

ウォーミングアップを兼ねて、日本の料理を見ながら名前を確認します。料理の写真等を持ってきて紹介してもいいでしょう。外国人参加者の母国の有名な料理は何かを尋ねて、楽しく会話を膨らませてください。

▲ はなしましょう 1

イラストを見て、二人がこれから何をするのかを話しましょう。どんなレストランに行くのか、どんな料理を食べるのか色々と考えて楽しく会話をしましょう。その料理がどんな味なのかを聞いてもいいように、味覚の表現を入れています。イラストに縛られず、外国人参加者やあなたの好きな料理について話してください。



▲ はなしましょう 2

3つのイラストがあります。「はじめに」や「はなしましょう1」で出てきた好きな料理や得意料理について、その作り方を教えてあげたり、外国人参加者に聞いたりしましょう。「れんしゅう1」の語彙を参考にしてください。特に動詞は新出語彙が多いと思いますので、イラストを見ながら確認しましょう。

ここでは動詞の「て形」が登場します。「て形」を知っている外国人参加者は、「野菜を切ってください」など、「～てください」の表現を使いながら説明をしたり、「野菜を切って、鍋に入れます」など複文を作成したりするでしょう。

まだ「て形」を知らない外国人参加者は、短文で話すかもしれません。「そして」、「それから」、などの接続詞を使いながら話してもらいましょう。

否定的な指示として「～ないでください」も話の中に取り入れてください。

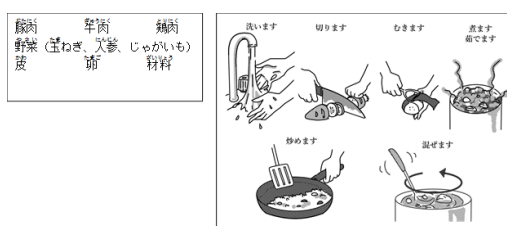


「て形」を知らない外国人参加者には、「ことばリスト」で確認してください。また、「て形」「ない形」など、巻末の「動詞活用表」や、カスタネットの動詞カードなどを利用して対応しましょう。

▲ れんしゅうしましょう 1

「はなしましょう 2」で話した内容を文字化するように促しましょう。「～てください」「～て、～」など「て形」の文を確認してください。

話しの中で出てきた表現を使って自由に書いて構いません。例えば、「混ぜてはいけません」「まだ入れないでください」などが出てくるかもしれません。



▲ れんしゅうしましょう 2

料理を教える人と習う人との会話です。料理を習う人は、丁寧な受け答えをした方がいいでしょう。

②については、時間を聞いているので、具体的な時間や状態で答えるのがいいでしょう。

▲ もっと

日常会話では、「貸してください」など、文を最後まで言わずに「貸して」などと省略することがあります。

- ・「そのペンを貸して下さい」→「そのペン（を）貸して」
- ・「ここに書かないでください」→「ここに書かないで」

となります。

書き言葉での省略はありません。

▲ かきましょう

これまで話したり書いたりしたことをもとに、外国人参加者の得意料理の作り方を説明する文を書いてもらいましょう。素敵なレシピができるといいですね！

あるといいもの！

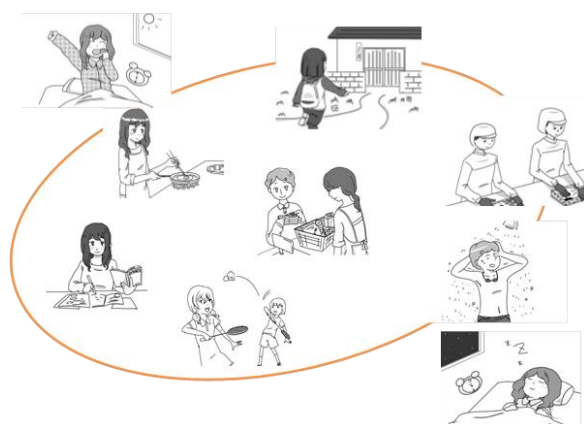
料理の写真 料理のレシピ本

3. 旅行先で （～てから／～て、～）

▲ はじめに

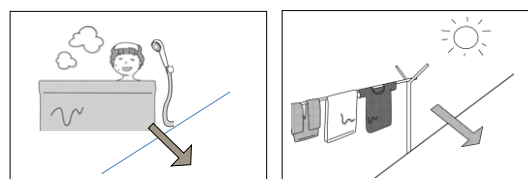
9つの動詞のイラストがありますが、左上の「起きます」と右下の「寝ます」以外は輪の中にあり、一日の中で行う活動がいろいろあることを示しています。まず、1つ1つの動詞を確認してください。「働きます」は初出です。パートやアルバイトで働いている方には、親しみがあるイラストになるかもしれません。全部の動詞がわかったら、次に「て形」を使って動詞を繋げてみましょう。ボランティアの方が先に1つ2つ繋げてみてください。「て形」を知っている外国人参加者は、自ら繋げ始めるでしょう。「て形」に戸惑っていたら、17ページの「ことばリスト」に書いてあるので、そこを示してください。

イラストを見ての活動だけでなく、外国人参加者自身の一日の活動について話してもらいましょう。もちろん、ボランティアの方が先にお話をしてください。話が広がることは望ましいことなので、どうぞ膨らませてください。



▲ はなしましょう1

「お風呂に入ります」「洗濯をします（干します）」というイラストに、それぞれ矢印が付いています。その意味は、次に何をするか、ということをお外国人参加者と共に考え、聞き出してもらいたいのです。その中で、「お風呂に入ってから、テレビを見ます」などという文が出てくるでしょう。動詞を繋ぐことができればいいと思います。「お風呂に入って、テレビを見ます」でもいいです。



▲ はなしましょう2

タイトルにもある「旅行先で」の話をしてみましょう。3つのイラストは（車中→お寺か神社→旅館）と繋がっているようですが、1つ1つのイラストについて話を作っても構いません。そこから、自分が行った旅行について話してもらいましょう。外国人参加者の中には、旅行など行ったことがない人もいます。その場合は、配慮をお願いします。身近な話題に変えてください。



▲ れんしゅうしましょう1

この課の目標である、「て形を使って動詞を繋ぐ」練習をします。枠内に挙げてある語彙は、「はなしましょう2」の旅行に関する語彙です。そのまま使ってもいいですが、「はじめに」で使った一日の活動について書いても構いません。て形が文字化できているか、助詞は正しく使えているか、などに注意してチェックしましょう。

▲ もっと

この課では、動詞を繋ぐことを中心に活動します。例文として①「テレビを見てから、お風呂に入りました。」を挙げましたが、この文は②「テレビを見たあとで、お風呂に入りました。」③「お風呂に入るまえに、テレビを見ました。」という文でも表せます。同じ順序で行った行動を、3つの文で表すことができます。もちろん、3つの文の持つ意味（ニュアンス）は必ずしも同じではありませんが、それはボランティアの方の語感で示してください。2つの動詞を繋ぐことから膨らませて、3つの文で表現できるように練習してください。

- ①動詞1の「て形」＋から、動詞2
- ②動詞1の「た形」＋あとで、動詞2
- ③動詞2の「辞書形」＋まえに、動詞1

あるといいもの！

地域の観光パンフレット 催事場のちらし（駅弁） 神社・寺・旅館の写真

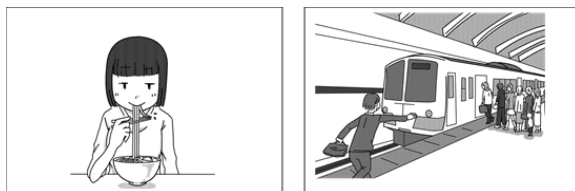
4. ルールとマナー （～てはいけません／～ないでください）

▲ はじめに

イラストを見ながら語彙を確認します。ここでは場所や乗り物の名前を知っているか、また外国人参加者の国にある施設等について聞いてください。（駅・図書館・公園・病院・コンビニ・学校・電車・バス・タクシー）曖昧な表現をしたイラストもあるので、外国人参加者と共に話を膨らませましょう。

▲ はなしましょう 1

蕎麦などの日本食の中には音を立てて食べても構わない物がありますが、他の国ではどうでしょうか。肘をついて食べてもいいのでしょうか。電車やバスなどの公共交通機関を使う際のルールやマナーも違いますね。時間通りに来ますか。駆け込み乗車、電車の中での居眠りなどはどうですか。文化の違いを話しましょう。



▲ はなしましょう 2

左のイラストの中の看板に書かれているマークの意味はわかりますか。ここは車いす使用者等のための駐車スペースです。真ん中のイラストでは、お母さんらしき人がゲームに夢中の子どもに向かって何か言っています。右のイラストの場所はどこでしょう。ここでもお母さんは大変ですね。それぞれのイラストを見て、登場人物が何と言っているのか考えてみてください。その中に「禁止」を表す表現が出てくるでしょう。



▲ れんしゅうしましょう 1

「～てはいけません」と禁止の言い方を書く練習をします。動詞の「て形」に繋がります。「て形」がわからないときは、「ことばリスト」を見ながら文を作ってもらいましょう。「はなしましょう」で見たイラスト中の人物の言葉を書いてもいいですし、母国のマナーの話でもいいです。

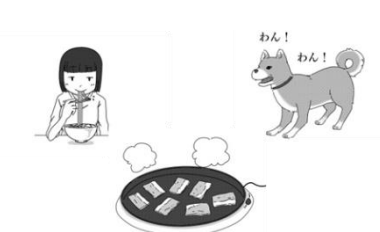
▲ れんしゅうしましょう 2

聞き取り文の中にカタカナ語が出てきます。「コピー」が「コピ」、「アパート」が「アパト」となっていないでしょうか？正しい表記を示しましょう。

それから、適切な答えを選びます。すべての文を読んで、文の意味がわかっているかどうか確認します。①の答えは C です。受付の人なら、乱暴な言い方ではなく丁寧に答えるでしょう。②の答えは B です。隣の人なら、B が一番自然でしょう。

▲ もっと

擬音語の話をしてします。動物の鳴き声、雨音、おいしそうなお音はどんな音でしょうか。特に動物の鳴き声は国によって違いますから、楽しくおしゃべりできるでしょう。



▲ かきましよう

外国人参加者の国の交通ルール、学校の規則、日本とのルールやマナーの違いなどを書いてもらいましょう。

あるといいもの！

交通標識の載っている本 自転車のルール本

5. 趣味・仕事 （～ことができます／～は～ことです／～が好きです）

▲ はじめに

ここでは、イラストを見ながら、できますか？できませんか？好きですか？と話をします。イラストがありますから、それを見て、「(名詞) ができます」「(名詞) が好きです」でもいいですし、動詞を使って「泳ぐことができます」「泳ぐことが好きです」という言い方も確認します。それから、お互いの趣味について聞き合ひましょう。程度を表す表現も載せていますので、それを使って楽しく話しましょう。

ここでは、まだ「動詞の可能形」は提示していませんが、話すことができる外国人参加者がいるなら使って話してもいいです。

▲ はなしましょう1

2つのイラストを参考にして、

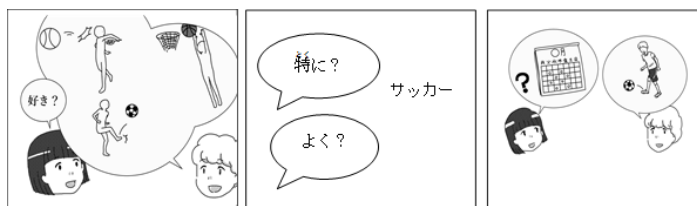
- ・「名詞」 が 好きです
- ・「動詞（辞書形）＋こと」が 好きです

と質問したり答えたりしましょう。「歌が好きです」というと、「歌を聞くこと」が好きなのか、「歌を歌うこと」が好きなのかよくわかりませんから、詳しく聞くのでもいいかもしれません。イラストを離れて、お互いの趣味の話について話を膨らませてください。



▲ はなしましょう2

3つのイラストを見て話を作りましょう。左のイラストは「スポーツが好きですか」と尋ねています。真ん中のイラストは「特に（何が好きですか）？」とか「よく（何をしますか）？」という質問をします。右のイラストは、どのくらいの頻度であるかを聞くため、「週に何回？」「一か月に何度？」などと聞いたらいいでしょう。イラストを見ながら話をすることができたら、「れんしゅうしましょう1」の語彙を参考にしながら、お互いの趣味について話を膨らませましょう。



▲ れんしゅうしましょう1

左の枠内に挙げた語彙は趣味についての詳しい内容です。これまで話したことをもっと詳しく話すために挙げたものですから、すべての語彙を確認する必要はありません。お互いがあるいは外国人参加者が興味を持っている内容を取り上げて話を深めましょう。しっかり会話をしたあとで、それを文字化するように促してください。

- ・私の趣味は、（名詞）を（動詞辞書形＋こと）です。
- ・私は、（名詞）を（動詞辞書形＋こと）が 好きです。
- ・1 週間に 1 度／1 回

などが間違わずに書くことができるかどうか確認してください。

▲ れんしゅうしましょう2

①の正解はAとBとCです。「歌うことができますか」と聞いていますから、「歌いません」はおかしいですね。Cの「いいえ、日本の歌をしりません。」というのは理由として挙げているのでこれも会話としては間違いではありません。

②の正解はAとDです。「将来の夢は何ですか。」と聞かれたときに、普通は「（名詞）になることです。」と答えることが正しいですが、「先生です。」という回答も許容範囲として正解としています。

▲ もっと

「ために」というのは、「目的」「原因」「恩恵」の用法がありますが、ここでは、仕事というテーマに関連した、「目的」として使用する例を挙げています。将来の目的のために現在していることを述べています。

▲ かきましょう

自分の趣味について外国人参加者が詳しく書けるように手助けしてあげましょう。

あるといいもの！

あなたの趣味に関する物（写真、作品、パンフレット等）

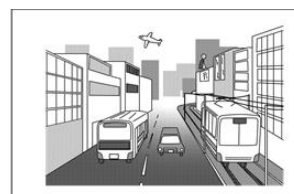
6. 電話を受ける・意見を言う (～と思います／～と言います)

▲ はじめに

9つのイラストがありますが、形容詞が3つ(上段)、動詞が6つです。それぞれのイラストの意味を確認してから、指示のように「丁寧な言い方」と「普通の言い方」の両方が言えるか聞いてみてください。「丁寧な言い方」はフォーマルな場所や目上の人と話すときの言い方、「普通の言い方」は友だちや家族内での会話の言い方です。「見ます／見ません」「見る／見ない」などです。巻末に表がありますので、参照してください。

▲ はなしましょう1

2つのイラストについて、外国人参加者に「どう思いますか?」と聞いてください。左のイラストは女子高校生の制服です。制服があった方がいいか、またスカートの長さはどうか、など話しましょう。右のイラストは交通機関を表しています。交通機関の名称を確認して、便利な都会がいい、不便でも田舎が好き、などと話してください。外国人参加者の国にある交通機関の話をしてもらってもいいでしょう。



▲ はなしましょう2

3つのイラストは電話対応の場面です。一連の流れを考えましょう。日本人と結婚した外国人参加者の女性を想定してみました。家に夫への電話がかかってきます。その時どうするか。夫が不在だということ、何時ごろ帰るか、を伝えられれば十分でしょう。

電話の会話は「丁寧な言い方」ですが、「5時ごろ帰ると思います」「5時ごろ帰ると言っていました」という文の中では「帰る」という「普通の言い方」が現れます。電話での会話に自信が持てるように、何回も練習しましょう。(「もっと」②にモデル会話があります。) この会話が簡単にできる外国人参加者には、いろいろな状況・場面を与えて、電話での会話を続けてください。



▲ ポイント！

「普通形＋と思います」「普通形＋と言います」という文型は、「初級日本語集中講座」では扱いません。「普通形」の作り方・考え方は「初級日本語集中講座」で導入済みなので、ちょっとした応用と考えて話してください。思ったり言ったりした内容は「と」の前に来て、その文末は「普通形」になります。外国人参加者が気付けばいいでしょう。

▲ れんしゅうしましょう1

枠内に挙げた語彙について、どう思うか、外国人参加者に聞いてみましょう。書くことを急がずに、まずそれぞれについて話しましょう。「日本のアニメを見ますか？ どう思いますか？」「あなたの国で、リンゴはいくらですか？」等。じっくり話した後、文字化するように促してください。「普通形」が作れているか、助詞は適切か、確認しましょう。

▲ れんしゅうしましょう2

聞いて書く、というやり方は、他の課と同じです。②の回答の選択肢の中の

A「いただきます」といいます。

について書いておきます。日本語の表記では、誰かの話した内容をそのまま書き表したいときは「」（かぎカッコ）を使います。「」の中の言葉遣いは話し手の発した言葉そのままなので、後ろに「～と言いました」が付いても、普通形に変わることはありません。

▲ もっと

①は会話の中で使う縮約形の表現です。「～と言いました。」と最後まで言わずに「～って」でやめてしまいます。

②は、電話のモデル会話です。「はなしましょう2」で会話が作れないとき、参考にしてもいいでしょう。ただし、「もっと」の会話には敬語が含まれています。初級者には「今おりません。」という謙譲表現は難しいので「今いません。」を示してください。良く話せる外国人参加者には、敬語での会話に発展させてもいいでしょう。

また、もう一つのモデル会話は、勧誘を断るための会話です。日中の家の電話には、いろいろな勧誘の電話がかかってきます。それを断れる言い方を知っておくのはいいことだと思います。

▲ かきましょう

「れんしゅうしましょう1」で話したことをもとにして、意見を書いてみましょう。外国人参加者の意見をまとめながら、書くように促してください。

7. 楽しかったこと （～たことがあります）

▲ はじめに

「唐津くんち」（11月2～4日に佐賀県唐津市で行われる祭り）、「さがインターナショナル・バルーンフェスタ」（10月末から11月初めの5日間、佐賀市嘉瀬川河川敷周辺で開催されるイベント）と、佐賀ならではのものを取り上げました。地域のお祭りや、イベントなどの情報も盛り込んで話を膨らませましょう。外国人参加者は地域の情報を得る手段がない人も多いので、情報提供の場にしてください。外国人参加者の母国の祭りについても話してもらいましょう。

▲ はなしましょう 1

日本に来てから経験したことを話してもらいます。日本文化の代表的なものとして、お茶やお花などの習い事、温泉などをイラストで表してみました。日本文化についてまったくわからない外国人参加者には丁寧に説明したり、実際に経験してもらったりするのもいいですね。外国人参加者に合わせた話題を臨機応変に取り入れて、話してください。



▲ はなしましょう 2

ここでは、3つのイラストを繋げて話を作ってもらいましょう。まず、一つ一つのイラストの状況を確認しましょう。外国人参加者の自由な発想も取り入れて、イラストの中の子どもがどうなったかを話しましょう。その後、お互いのこれまでの経験を話します。経験は、「（動詞た形）＋ことがあります」で作ります。「た形」がわからない外国人参加者には「ことばリスト」を示してください。



▲ れんしゅうしまししょう 1

「とき、～たことがあります」という文を作る練習をします。「名詞＋のとき」「い形容詞＋とき」「な形容詞＋なとき」を使って文を作り、「動詞＋とき」はここでは扱いません。また、「去年の誕生日に」「〇月〇日に」は 1 回だけの出来事ですので、「経験」の表現ではなく「～ました」で作ります。

▲ れんしゅうしまししょう 2

①「九年庵（くねんあん）（佐賀県神埼市にある紅葉の名所）に行ったことがありますか」という質問に対し、経験があるかないかは「はい、いいえ」で答えるので、A と B と D を正答としました。

②は質問文ではないので、「はい」「いいえ」では答えません。人の経験を聞いた時の受け答えは、同調・同感が多いですが、この場合は「へえ」等の驚きの気持ちを表す表現を使っています。

▲ もっと

①は日常会話で日本人がよく使っている「音変化」を説明しています。「らりるれ」が「ん」の音に変化します。身近な人に対して使う表現なので、目上の人に使うと丁寧さが無くなることを外国人参加者に言いましょう。

②は縮約形の一つで、「～ておく」は「～とく」、「～でおく」は「～どく」に変わります。「食べておいてください」は「食べといて」、「読んでおいてください」は「読んどいて」というように、縮約形と共に「ください」を省略することが日常会話では多いです。

あるといいもの！

祭りやイベントが掲載されているチラシ、市報、フリーペーパー等

8. わたしの夢 (～がほしいです／～たいです／～ので、～)

▲ はじめに

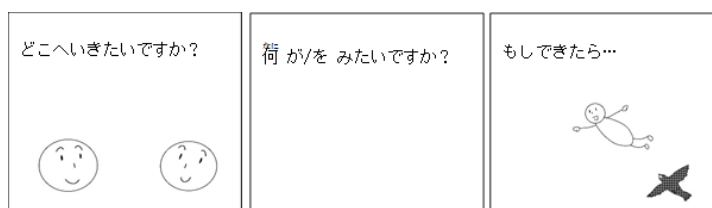
「今何が欲しいですか」と尋ねてください。イラストを参考にして答えてもいいですし、自分の欲しいものを自由に話してもいいです。

「家が欲しい」「友達／彼女／彼氏が欲しい」「車が欲しい」「新しい服が欲しい」「運転免許証が欲しい」などの答えが返ってくるでしょう。ショッピングセンターのイラストでは、「(名詞)が欲しい」と色々な答えが出るでしょう。また、「(動詞ます形)＋たい」という表現を使って、「車に乗って色々な所にドライブしたいです」などと話を膨らませてもいいです。

ビンゴゲームのやり方は自由です。例を挙げると①それぞれしたいことを書き入れた後、交互にその答えを含む文を言う、②絵カードがあれば、その絵を見てしたいことを書き込む。その後絵カードをめくりをする。など楽しく遊べるように考えてください。

▲ はなしましょう1

今したいことを話し合しましょう。「どこへ行きたいですか」「何を／が見たいですか」と聞いて、それから「どうして?」とその理由を尋ねてください。3番目の「もしできたら…」は、実際は出来ないようなことを想像してイラストのように「空を飛ぶ」だけではなく、ドラえもんにも負けずに発想を広げましょう。



▲ はなしましょう2

3つのイラストを見ながら、まずはそれぞれのイラストの人物がしたいことを考えましょう。そのときに「痩せたいです」だけではなく、理由も話しましょう。「太っているので、痩せたいです。」と「ので」を使った複文を作るように話を膨らませましょう。それから、お互いがしたいことを自由に話しましょう。



▲ れんしゅうしましょう1

左枠には今の私について書きます。右枠には未来の私について書きます。つまり将来の自分を想像して将来の夢を書き出すといいです。しっかり話した後に、例に挙げているような理由を表す表現や目的を表す表現を使って、複文を作れるように手助けをしてあげてください。

▲ れんしゅうしましょう2

①は「会いたいですか」という質問ですから、回答としては「(人)に会いたいです。」または「会いたいと思っています。」と「～たい」を使った文にしなければなりませんね。

②は「家族のために」を入れてもいいですし、なくても回答としては間違いではありません。

▲ もっと

「～たいです」は一人称のみに使用します。「あなたは行きたいです。」「〇〇さんは食べたいです。」と間違えて使用することがよくあります。三人称の場合は、「～たいと言っています」「～たいそうです」「～がります」「～がっています」など表現を使わなければならないことを説明してください。二人称は疑問文のときは使用できます。でも、「あなたは食べたいですか。」と相手に聞くのは失礼な感じがします。あまり使わない方がいいと伝えましょう。

▲ かきましょう

あなたの夢について書きましょう。ここで練習したような「～たいです」「～ので、～」「～ために、～」などの表現を使いながら、ある程度長い文章が書けるように、手助けをしてあげてください。

あるといいもの！

ビンゴゲーム用の絵カード（動詞カードなど）、イベントのチラシ

9. これは何でしょう （形容詞＋形容詞）

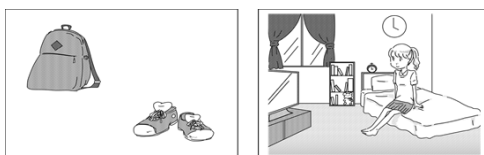
▲ はじめに

6つのイラストがありますが、形容詞のイラストです。「暑い・冷たい・難しい・忙しい・うるさい・いい」のイラストのつもりですが、もちろん違う形容詞を使っても構いません。（形容詞をイラストで表現するのは難しいことです。）それぞれのイラストの形容詞を確認してから、それを文字化して「はんたいのことば」の欄の矢印の左側に書きます。6つ書けたら、今度はそれぞれの反対の形容詞を書くように指示してください。「暑い⇄寒い」のような感じです。語彙は外国人参加者が出してきたものを尊重してあげましょう。助けを求められたときには、手伝ってください。

形容詞には反対語が多く存在することが意識づけられたら、その先の活動の理解が楽になります。

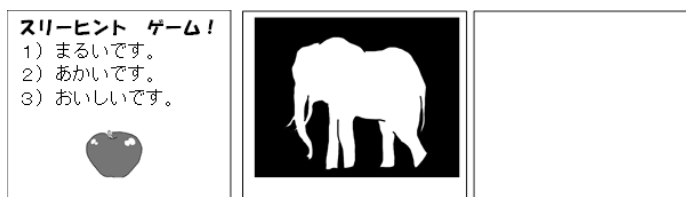
▲ はなしましょう1

2つのイラストを見て、話をしましょう。左のイラストは、物の名称とそれに関連する形容詞が言えるといいですね。部屋のイラストは、そこから外国人参加者自身の部屋の話に発展させてください。部屋の中にある物、その形状や状態などです。形容詞を意識して話を進めていただきたいです。



▲ はなしましょう2

ここでは「スリーヒントゲーム」を行います。左のイラストは「りんご」と「りんごを連想させる言葉」です。クイズのやり方がわかったら、真ん中のイラストで練習してみましょう。「そう」を連想させるヒントは？例えば、「大きいです。」「鼻が長いです。」「耳が大きいです。」などでしょうか。右の枠には、あえて何も書きませんでした。まずはボランティアの方がヒントを出して、外国人参加者に考えさせてください。次に外国人参加者にヒントを出してもらいましょう。2、3問、クイズを楽しんでください。



▲ ポイント！

「スリーヒントゲーム」ではバラバラに提示した 3 つの形容詞を繋いでみましょう。繋ぎ方は「い形容詞」と「な形容詞」では異なります。そして、形容詞を繋ぐ時に気を付けてほしいのは、形容詞にはイメージがあるということです。「～くて～」等で繋ぐ際は、「いいイメージ同士」または「悪いイメージ同士」でなければなりません。「はじめに」で「反対の言葉」を考えましたが、それが生きてきます。ボランティアの方の誘導で、2 つの形容詞を繋ぐ練習をしてみてください。

▲ れんしゅうしましょう1

「ポイント！」で 2 つ以上の形容詞を繋ぐ練習をしましたが、今度はそれを書いてみましょう。①～③は例のように「スリーヒントクイズ」をもとにした文を書きましょう。④と⑤はそれぞれ「映画」と「ケーキ」を飾る形容詞を 2 つ以上見つけて、それぞれの言葉の前に入れ込んでください。

▲ れんしゅうしましょう2

聞き取って、書いてもらいます。①の質問は「どうして」という疑問詞で始まっています。理由を聞いているので、回答は理由を示す「～から」または「～んです」という表現が必要です。②も「どんな」という疑問詞が入っている文です。回答には「ええ」という言葉は入りません。

▲ もっと

「ポイント！」に書いた文法事項の補足です。①は、イメージが違う形容詞の繋ぎ方です。ここでも、それまでに出てきた形容詞を使って、練習してください。何か 1 つの名詞（食べ物、持ち物、場所など）を提示して、いろいろな形容詞を探して繋いでみましょう。

②は、「～は～が」文と言われるものです。「象は鼻が長いです。」のように「名詞 1（主題）は名詞 2（その主題の一部分）が形容詞です」という文型で、日本語ではよく使われています。人や動物を描写してみましょう。

▲ かきましょう

まず「あなたの国で誰が有名ですか。」と聞いてください。ボランティアの方の知っている人だったら、話が弾みますね。知らない人だったら、いろいろな質問をしてください。ボランティアの方がイメージできるようにできれば、文章化するのは難しいと思います。2 つ以上の形容詞を繋げる練習をしたので、それが活かせるように、形容詞を意識して書くように促してください。

10. わたしの町 （あります・います）

▲ はじめに

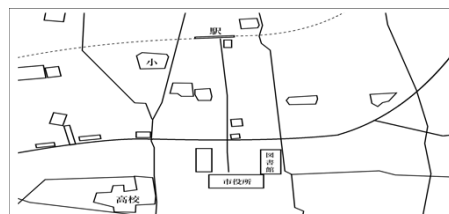
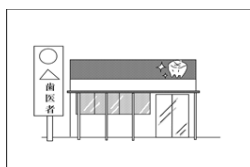
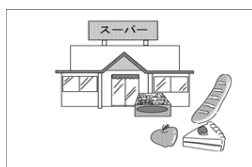
位置を表す言葉を確認しましょう。「初級日本語集中講座」で使用しているイラストですので、講座を受講した外国人参加者には思い出して言ってもらいましょう。

「机の上」「Aさんの前」など★の位置を言います。「名詞十の十位置詞」の語順がきちんとと言えるかどうか確認しましょう。

▲ はなしましょう 1

まず、近所のお店の話から始めましょう。何を売っているか、どこの店が安いのか、新しいか、品揃えがいいかなどで話しますが、お店のチラシや、町のフリーペーパーなどがあれば、それを見ながら話すと楽しいでしょう。

次に、歯医者さんのイラストを出しました。どこの病院が親切か、評判がいいかなど身近な話をしてみましょう。病院の受診の仕方や診療科目は、外国人参加者の母国と違うことがあるかもしれません。子どもがいる外国人参加者など、問診表の書き方、薬の飲み方などの情報が必要な人にはより詳しく説明する必要がありますでしょう。



▲ はなしましょう 2

まず地図を見て、「駅」、「図書館」などが読めて意味がわかるかどうか確認しましょう。「高校」はわかっても「小」はわかるでしょうか。「小学校」のことですね。地図記号や、町の中で見かけるいろいろなマークなどを見せて話すのもいい活動になります。携帯で写真を撮っておくといいですね。

その下の白紙には自分たちが住んでいる町の地図を書きます。外国人参加者だけ書くのではなく、ボランティアの方も書いてお互いの地図を見ながら話しましょう。同じ町内の地図を書いてもいいですし、外国人参加者の母国の町の地図を書いてもらうのも楽しいです。

▲ れんしゅうしましょう 1

「はなしましょう2」で話したことを文字化してもらいましょう。町に何があるのかを書いてもらいます。例文のように町に大きい公園があるなら、公園の中に何があるのか、詳細を書いてもらうのもいいです。また、外国人参加者の家の中に何があるか、誰がいるかも書いてもらいましょう。

外国人参加者の中には、「あります」と「います」の使い分けを間違える人がいるかもしれません。その際は、以下の決まりを伝えてください。

- ・(場所)に(物、植物)があります。 ⇒ 無生物／自ら動けない生物
- ・(場所)に(人、動物)がいます。 ⇒ 自ら動ける生物

▲ れんしゅうしましょう 2

①の森林公園は佐賀市にある公園です。公園内には野球場やテニスコート、遊具、子どもたちのための広場があります。

②は誘われた時の対応の仕方です。日本語では「忙しいから行きません」などとはっきり断らずに、理由を言って「すみません」「ちょっと…」などで表現しますね。BとCが適切でしょう。

▲ もっと

「あります」という動詞は、「存在」を表すだけでなく「所有」の意味も表します。「車があります」「お金があります」「家の裏に広い土地があります」は、「車を持っています」「お金を持っています」「家の裏に広い土地を持っています」と言うこともできます。目に見える物は「持っています」の方がよく使うようです。しかし、「時間があります」「用事があります」「約束があります」は「持っています」とは言いません。

▲ かきましょう

外国人参加者の住んでいる町や、母国の好きな場所について書いてもらいます。書く前に好きな場所や好きな店について話してください。話の中から、何を書けばいいか思い付くでしょう。

あるといいもの！

町の地図、店のチラシ、病院のパンフレット、地域のフリーペーパー

11. できること・できないこと （可能形）

▲ はじめに

ここでは、可能表現の確認です。第 5 課で、「～ことができます」という表現をしました。動詞を提示しましたので「料理する→料理することができます」というように一つ一つ質問しながら確認しましょう。ここでは可能形も一緒に押さえます。わからない外国人参加者には「ことばリスト」を見せながら確認するといいいでしょう。

▲ はなしましょう 1

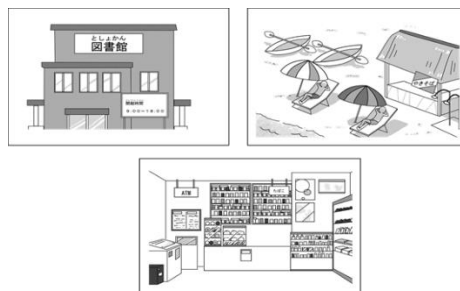
イラスト中央の男性はとても自信をもっているような様子です。まず、外国人参加者にどんな特技があるか尋ねてください。このイラストでは「マラソンができます（長い距離を走ることができます）」「英語が話せます（〇〇語を話すことができます）」など言うことができますが、このイラストに縛られずに、ボランティアの方も自分の特技を話してください。可能表現の「能力」を表します。



▲ はなしましょう 2

イラストの場所で何ができるか、できないかを考えてみましょう。図書館では、海では、コンビニでは、ポイントに挙げられている動詞も参考になるでしょう。

「図書館で（名詞）ができます」「海で（動詞）＋ことができます」などと話した後に、「できますか、できませんか」と質問をしあってもいいでしょう。また、国によってルールが違うものもありますから、イラストの場所だけではなく、電車の中や部屋の中など色々な場所を思い浮かべて話を膨らませるといいでしょう。可能表現の「可能性」を表します。



▲ ポイント！

可能形の練習です。わからない外国人参加者には「ことばリスト」を見ながら確認しましょう。しっかり覚えたい外国人参加者に対しては、1 グループでは「-e ます」、2 グループでは「られます」、3 グループでは「できます、来られます」と活用することを、巻末の動詞活用表で再確認するといいいでしょう。

▲ れんしゅうしましょう1

外国人参加者ができること、できないことを書いたり、「はなしましょう」で話した内容について書いたりするように促しましょう。「ポイント！」で挙げられている動詞を利用していいです。

▲ れんしゅうしましょう2

①の質問「借りられますか」の答えとして、一般的なものはBの「はい、借りられますよ。」になりますが、日常会話のなかでは、Cのような回答もあるでしょう。

②の「お茶を飲んでもいいですか」の一般的な回答はAの「いいえ、飲んではいけません。」ですが、Bのような回答も言われることがあります。

▲ もっと

「ポイント！」に書いた文法事項の補足です。

可能表現には、次のように2つの種類があります。

- ・～を （動詞辞書形）＋ことができます
- ・～が （動詞可能形）

助詞の「を」は可能形では「が」に変化します。

また、最近では「られる→れる」のように「ら抜き」の可能形も一般的に使われるようになりました。「食べられる＝食べれる」「来られる＝来れる」のように、受身形や尊敬語との差別化の意味合いでも使用頻度が高くなって許容されるようになりました。

▲ かきましょう

外国人参加者に、昔はできなかったけれど、今できるようになったことはないかを聞いて、それを文章にできるように手助けをしましょう。個人的なことでも、時代の変化やあなたの国の歴史の変化でも構いません。

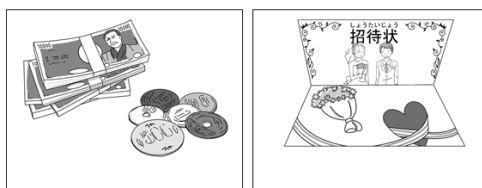
12. タイムマシンがあったら （～たら、～）

▲ はじめに

イラストを見ながら話します。ここでは、「家に帰ったら～」「仕事が終わったら～」その後、何をするのかを話します。「夏休み（冬休み）になったら」などほかのテーマでも話してみましょう。「ことばリスト」の「た形」を見ながら、「（動詞た形）＋ら」で作ります。

▲ はなしましょう 1

「もし、自由になるお金が1万円あったら…／10万円あったら…」など仮定の話をしてします。「結婚式に呼ばれたら」では、母国の結婚式について話してもらいましょう。ボランティアの方からも、日本の結婚式の話をしてください。最近の結婚式の様子、打掛やドレス等の着る物、料理、かかる金額、招待された時の服装、お祝い等、外国人参加者には興味のある話題だと思います。地域や、時代によっても違う結婚式の話を楽しんでください。



▲ はなしましょう 2

イラストでは、時間軸と現在・過去・未来を表現しました。「恐竜」「宇宙旅行」などの言葉を確認してから、「タイムマシンがあったら、いつの時代に行きますか。過去ですか、未来ですか。そこで、何をしますか、何を見たいですか。」といろいろ問い掛けてください。どうしてその時代に行くのか、理由を聞いたりしましょう。もちろん、ボランティアの方から先に、いろいろな夢を語ってもらいたいと思います。

▲ れんしゅうしましょう 1

枠内の文がわかるか確認することから始めましょう。「退院する」という言葉の意味がわかったら、「～たら」を使う文を作ってもらいます。例文の「退院したら、温泉に行って、おいしいものを食べたいです。」というのは入院中の方の想像（希望、期待）でしょうか。「～たい」を使った文には、このように「仮定」を表す表現が多いですが、「退院したら、すぐ仕事に行かなければなりません。」のように、退院後

の計画が決まっていることも表せます。「次に何をするか」ということで、「継続」とでも言えるでしょう。「お酒を飲んだら…」の文も、いろいろ作れそうです。

- お酒を飲んだら、いつも顔が赤くなります。 → 恒常条件
- お酒を飲んだら、つらい別れが忘れられるでしょうか。 → 仮定
- お酒を飲んだら、車を運転してはいけません。 → 継続

文法用語は外国人参加者には示す必要はありません。楽しくおしゃべりしてください。外国人参加者の自由な発想を大切にして、文字化してもらいましょう。

▲ れんしゅうしましょう 2

① 蕁麻疹（じんましん）を知っているか、確認してください。「どうしたらいいですか。」というのは、助言を求める言い方です。その回答として適しているのは、AとCでしょう。

▲ もっと

助言を求めるとき「～たらいいですか」という表現を使い、助言をするときには「～たらいいですよ」と答えます。これも「たら」の用法の一つです。



▲ かきましよう

「はなしましよう2」で話をした「タイムマシンがあったら」を文字化してもらいましょう。夢のような話を書くのは楽しいと思います。

あるといいもの！

結婚式場の案内、チラシ、のし袋

13. ライトがついています (～が～ています／自動詞・他動詞)

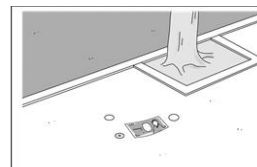
▲ はじめに

8つのイラストがありますが、上の4つは他動詞（動作主が存在して主語になっている）、下の4つは自動詞です。ほとんど同じようなイラストですから、どれとどれが対になるかは、外国人参加者にもすぐわかると思います。上下のイラストを、線を引くことで繋ぎ合わせてもいいですね。セットができたところで、その動詞のセットを文字化してみましょう。答えは…

- ・(電気を)つけます⇔(電気が)つきます
- ・(子供を)起こします⇔(子供が)起きます
- ・(花瓶を)壊します⇔(花瓶が)壊れます
- ・(ドアを)開けます ⇔(ドアが)開きます

▲ はなしましょう1

2つのイラストを見て、ストーリーを作ってもらいましょう。キーワードは「お金」です。「お金を落としました。」「お金が落ちています。」という言葉が出てくるでしょうか。日本に長く住んでいる外国人参加者からは、自然に出てくるかもしれません。お金を落とした経験や拾った経験、また、お金を拾った時はどうするか、など話が膨らむことを期待します。



▲ はなしましょう2

2つのイラストを比べてください。それぞれのイラストの中に共通してある物は、テレビ・時計・窓・カーテン・本です。左と右のイラストでは、少しずつ状態が違います。(右のイラストでは、…時計が壊れています。窓が開いています。本が落ちています。)それぞれのイラストにしかない物を確認してもいいです。最後にイラストの下に書いてある「テレビが…」に何を入れたらいいか、考えてください。

- ・(左のイラスト) テレビが消えています。／テレビがついていません。
- ・(右のイラスト) テレビがついています。



▲ ポイント！

自動詞の「て形」を作って、それに「います」をつけると、「状態」を表すことができます。「状態」という言葉は、できたら、外国人参加者の母語を調べて示してあげると理解が早いでしょう。この課のイラストを見直して、「状態」の表現をしたり、

部屋の中を見回して、気付いたことを言ってもらったりしましょう。他動詞を使って状態を表すには「(他動詞のて形)＋あります」の文型を使います。その時は動作主の意図が感じられる文になります。

▲ れんしゅうしましょう1

「自動詞の文」と「他動詞の文」を書き分ける練習をします。例のように「テレビがついています。」は「(自動詞のて形)＋います(状態)」の文、「だれがつけましたか。」は「他動詞の文」です。「はなしましょう1・2」や「はじめに」のイラストを見て、文を作るように促してください。文に違和感がないか、助詞は適切か、確認しましょう。

▲ れんしゅうしましょう2

①の動詞は(サンダルを)「履く」②の動詞は(お金が)「入る」ですが、「～ています」の形にすると「はいています」「はいつています」と似た発音になります。外国人参加者が聞き取れているか確認しましょう。

▲ もっと

「(動詞て形)＋います」という文型はよく使われています。ただ、自動詞と他動詞では同じ文型でも意味が違います。

①他動詞の「勉強します」を「勉強しています」にすると、「今勉強している」と「習慣的に勉強している」の二つの意味を持ちます。「飲みます」も同様です。

②の「着ます」は他動詞ですが、上記の二つに加えて「状態」も表します。

③「結婚します」はそのまま使うと「未来」を表し「結婚しました」は「過去のある時」を表します。現在を言うには「結婚しています」を使います。「ある動作の結果としての状態」と言えます。同じ使い方をする動詞に「住みます」「知ります」「持ちます」があります。

▲ かきましょう

適当な風景写真などを準備しておきましょう。ボランティアの方の家族写真でもいいです。部屋の中の様子を話して、それを文字化してもらってもいいです。

▲ ことばリスト

自動詞と他動詞の区別がある言語とない言語があるので、母語を書く欄は1つにしました。活動の中で出てきた動詞のセットがあれば書き足してください。動詞全てに自動詞・他動詞のセットがあるわけではありません。自動詞だけ、他動詞だけの動詞もあります。

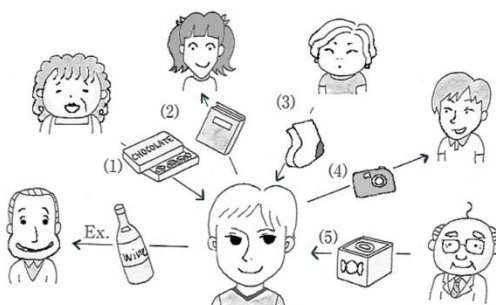
あるといいもの！

風景写真、家族写真、絵

14. 割引券をもらったので (やりもらい/～ので、～/～のに、～)

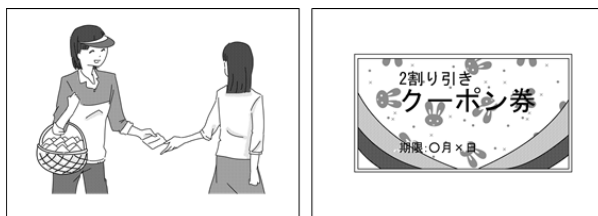
▲ はじめに

人を介して物の移動を言うとき「あげる、もらう、くれる」という言葉で表現し、これを「やりもらい」または「授受」と言います。ここでは、やりもらいの練習をしましょう。真ん中の人「私」です。周りの人々の名前は自由に考えてください。矢印が「私」に向いている(1)(3)(5)は「木村さんにチョコをもらいました。」「木村さんがチョコをくれました。」のように2通りの言い方ができます。また、「木村さんにチョコをもらいました」は「木村さんから」と助詞を変えることもできます。(5)は年上の人からですから、「田中さんにキャンディをいただきました。田中さんがキャンディをくださいました。」と丁寧に言えるといいですね。



▲ はなしましょう 1

駅前でティッシュをもらったり、スーパーで割引券をもらったりすることがありますね。親しい人から商品券や図書カード等をもらうこともあるでしょう。どこで、何をもらったのか、それで何をしたかなど話しましょう。まずはボランティアの方の経験を、実物を見せながら話してください。

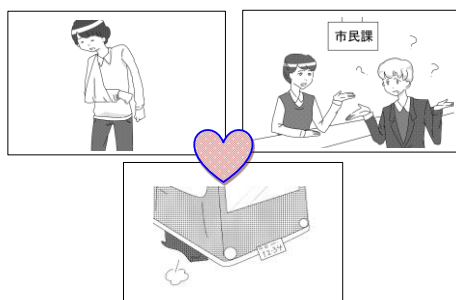


▲ はなしましょう 2

3つのイラストが表している状況を考えることから始めましょう。怪我をしたことや病気になったこと、市役所などで言葉がわからずに困ったこと、車がパンクしたことがあるでしょうか。外国人参加者に経験を聞いてみましょう。そのような困った状況におかれたときに誰かが何かをしてくれたら、どんなにかありがたく思う

でしょう。日本語では、感謝の気持ちを表すときに「(動詞て形) +もらいました」「(動詞て形) +くれました」を使います。「友だちに修理してもらいました。」「市役所の人が教えてくれました。」など、「やさしさ」のやり取りですね！それでハートを付けました。

「(動詞て形) +あげました」の表現は、状況によっては押しつけがましい言い方になるので、気を付けるように外国人参加者にアドバイスしてください。



▲ れんしゅうしましょう1

「はなしましょう2」で話したことを文字化しましょう。誰に何をしてもらったか、誰が何をしてくれたか書きましょう。その時、主語が変わると動詞が変わることに気を付けましょう。「～てあげます」の表現はあまり使わないので、小さい字にしました。「やりもらい」をする場面や状況はいろいろあるでしょう。誕生、入学、結婚など、人生の節目の言葉も提示して話してください。

▲ もっと

2つの文を繋げます。「～ので、～」は「～から、～」と多くの場合同じように使うことができます。ただ、「～から、～」は「うるさいから、もうちょっと静かにして。」など話し手の意志表現が強く出て丁寧さを欠くこともあります。「～ので、～」は丁寧な表現に使えます。「～のに、～」は、期待や予想していたこととは逆、期待外れの結果になってしまったことを表します。

▲ かきましょう

困ったとき、誰にどのように助けてもらったか、書いてもらいましょう。「～てもらいました」「～てくれました」を使うように促してください。その際、主語が「私」か「相手」かで動詞が変わることに注意してください。

あるといいもの！

割引券、クーポン券、図書カード、QUO カード、商品券

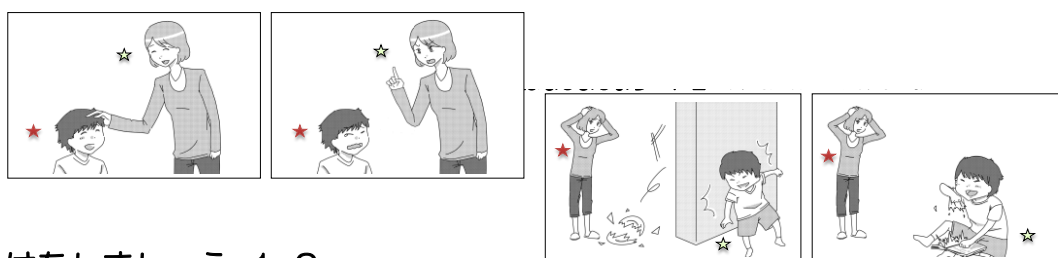
15. 犬にお弁当を食べられました (受身形)

▲ はじめに

イラストと枠内の動詞とを結びつけましょう。「お皿を割ります、お箸を折ります、ノートを破ります、おもちゃを壊します、洋服を汚します」と「～を＋他動詞」で、正しく繋げるか確認してください。

▲ はなしましょう 1-1

2 人の人がいて、どちらかがもう 1 人に向けて何らかの動作をしたとき、その行為を 2 人のそれぞれの視点から見て、2 つの文で表すことができます。「お母さんが子どもを褒めました。」という文はお母さんの視点です。子どもの視点で見ると「子どもはお母さんに褒められました。」という「受身形」の文になります。☆が動作主の視点、★は受け手の視点を表しています。文も対応しています。受身形は、「ことばリスト」にありますから、それを使って作りましょう。「誘われる、招待される、殴られる」などの動詞を使って、話してみましょう。



▲ はなしましょう 1-2

イラストでは、子どもがお皿を割ったり、本を破ったりしています。お皿を割る、本を破るという行為によって、直接ではありませんが、「私」は間接的に「被害・迷惑」を受けています。子どもさんがいる人なら、どんなことをされたことがあるか話してもらいましょう。

日本語では「被害・迷惑」の気持ちを表すときに「受身形」を使います。このイラストのお皿や本は「私」にとって大切なもので、子どもの行為は迷惑なことなのです。体の部分に影響を受けた時も「受身形」を使います。(➡「もっと」①に例文)

・電車の中で、知らない人に足を踏まれました。

また、自然現象や他人の自発的な行為なども「私」にとって迷惑なことだと感じた場合は「受身形」で表します。(➡「もっと」②に例文)

・急に雨に降られて、風邪をひいてしまいました。

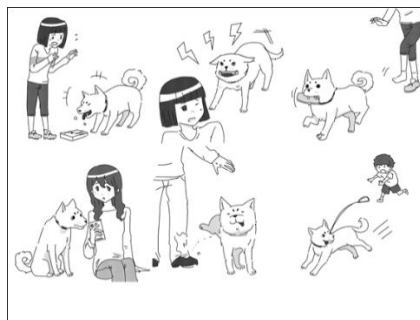
・タベ赤ちゃんに泣かれて、全然寝られませんでした。

・隣にビルを建てられて、日中も日が入らなくなりました。

▲ はなしましょう 2

ペットを飼っていますか。イラストの犬はいろいろな事をしています。タイトルにもなっている「犬にお弁当を食べられました。」は、筆者の実体験です。犬や猫やほかの動物に何か被害を受けたことを話しましょう。話が、「盗む、取る、触る」などの迷惑行為にも広がるかと思います。外国人参加者やボランティアの方が不快を覚えない程度で話しましょう。

- 犬に吠えられました。
- 犬に靴を持っていかれました。
- 犬に洋服を汚されました。
- 犬に逃げられました。



▲ れんしゅうしましょう 2

①の文の「造られました」は「もっと」③と同じ感情のない「受身形」です。

②は直接質問しているわけではありませんが、「犬に吠えられたんです。」と相手が言った場合、何かしらの反応を相手は求めています。そのときは「それは大変でしたね」や「え、怖かったですよ。」と相手の気持ちに寄り添うような答えを選ぶといいでしょう。

▲ もっと

3つの例文のうち、①と②については32ページで説明しました。

③の文は、「受身形」のもう一つの用法です。この文には「被害・迷惑」といった人間の感情は含まれていません。行事などが実施されることに注目して、それを行う人には注目していません。動作を行う人を「～によって」を使って表す場合も、文中に感情は存在しません。

- 2020年に東京でオリンピックが行われます。
- このサッカースタジアムは20年前に建てられました。
- 電気はエジソンによって発明されました。

▲ かきましょう

外国人参加者に、困ったことを書いてもらいましょう。「受身形」が正確に作れるか確認してください。作り方を聞かれた場合は、巻末の「動詞活用表」を参照して対応してください。

動詞の活用形

	ない形	ます形	じしょ形	可能形	受身形	て形	た形
I	か <u>わ</u> ない	か <u>い</u> ます	買 <u>う</u>	か <u>え</u> る	か <u>わ</u> れる	かって	かった
	き <u>か</u> ない	き <u>き</u> ます	聞 <u>く</u>	き <u>け</u> る	き <u>か</u> れる	きいて	きいた
	い <u>か</u> ない	い <u>き</u> ます	行 <u>く</u>	い <u>け</u> る	い <u>か</u> れる	いって	いった
	はな <u>さ</u> ない	はな <u>し</u> ます	話 <u>す</u>	はな <u>せ</u> る	はな <u>さ</u> れる	はなして	はなした
	ま <u>た</u> ない	ま <u>ち</u> ます	待 <u>つ</u>	ま <u>て</u> る	ま <u>た</u> れる	まって	まった
	の <u>ま</u> ない	の <u>み</u> ます	飲 <u>む</u>	の <u>め</u> る	の <u>ま</u> れる	のんで	のんだ
	つく <u>ら</u> ない	つく <u>り</u> ます	作 <u>る</u>	つく <u>れ</u> る	つく <u>ら</u> れる	つくって	つくった
II	たべ <u>ない</u>	たべ <u>ます</u>	食 <u>べる</u>	たべ <u>られる</u>	たべ <u>られる</u>	たべ <u>て</u>	たべ <u>た</u>
	み <u>ない</u>	み <u>ます</u>	見 <u>る</u>	み <u>られる</u>	み <u>られる</u>	み <u>て</u>	み <u>た</u>
III	しない	<u>します</u>	する	できる	される	して	した
	こない	<u>きます</u>	来る	こられる	こられる	きて	きた

丁寧体				普通体（普通形）			
書きます	書きません	書きました	書きませんでした	書く	書かない	書いた	書かなかった
あります	ありません	ありました	ありませんでした	ある	*ない	あった	*なかった
呼びます	呼びません	呼びました	呼びませんでした	呼ぶ	呼ばない	呼んだ	呼ばなかった
取ります	取りません	取りました	取りませんでした	取る	取らない	取った	取らなかった
開けます	開けません	開けました	開けませんでした	開ける	開けない	開けた	開けなかった
持って来ます	持って来ません	持って来ました	持って来ませんでした	持って来る	持って来ない	持って来た	持って来なかった
結婚します	結婚しません	結婚しました	結婚しませんでした	結婚する	結婚しない	結婚した	結婚しなかった
住んでいます	住んでいません	住んでいました	住んでいませんでした	住んでいる	住んでいない	住んでいた	住んでいなかった
高いです	高くないです	高かったです	高くなかったです	高い	高くない	高かった	高くなかった
欲しいです	欲しくないです	欲しかったです	欲しくなかったです	欲しい	欲しくない	欲しかった	欲しくなかった
飲みたいです	飲みたくないです	飲みたかったです	飲みたくなかったです	飲みたい	飲みたくない	飲みたかった	飲みたくなかった
元気です	元気じゃありません	元気でした	元気じゃありませんでした	元気だ	元気じゃない	元気だった	元気じゃなかった
好きです	好きじゃありません	好きでした	好きじゃありませんでした	好きだ	好きじゃない	好きだった	好きじゃなかった
雨です	雨じゃありません	雨でした	雨じゃありませんでした	雨だ	雨じゃない	雨だった	雨じゃなかった

執筆者(五十音順)

有瀬 尚子

貞松 明子

早瀬 郁子

有瀬 浩美 (イラスト)

執筆協力者

池上 順子

馬場 三佳

ボランティア教室のみなさま

*本書は、
平成 27 年度文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
により作成しました。

日本語ボランティア教室 活動ブックの手引き

2016 年 3 月

著者：佐賀県日本語学習支援“カ斯塔ネット”

印刷：株式会社副島印刷